





































釣り堀「カルロスリゾート」のイオンさん
僕は旅人で、最近はこのシアレンスに滞在していて
毎日のように釣り堀へと通っている

率直に言うと僕は彼女に恋をしていて
会いたくて、あわよくばそれ以上になる可能性を夢見て
毎日釣り糸を眺めていた。

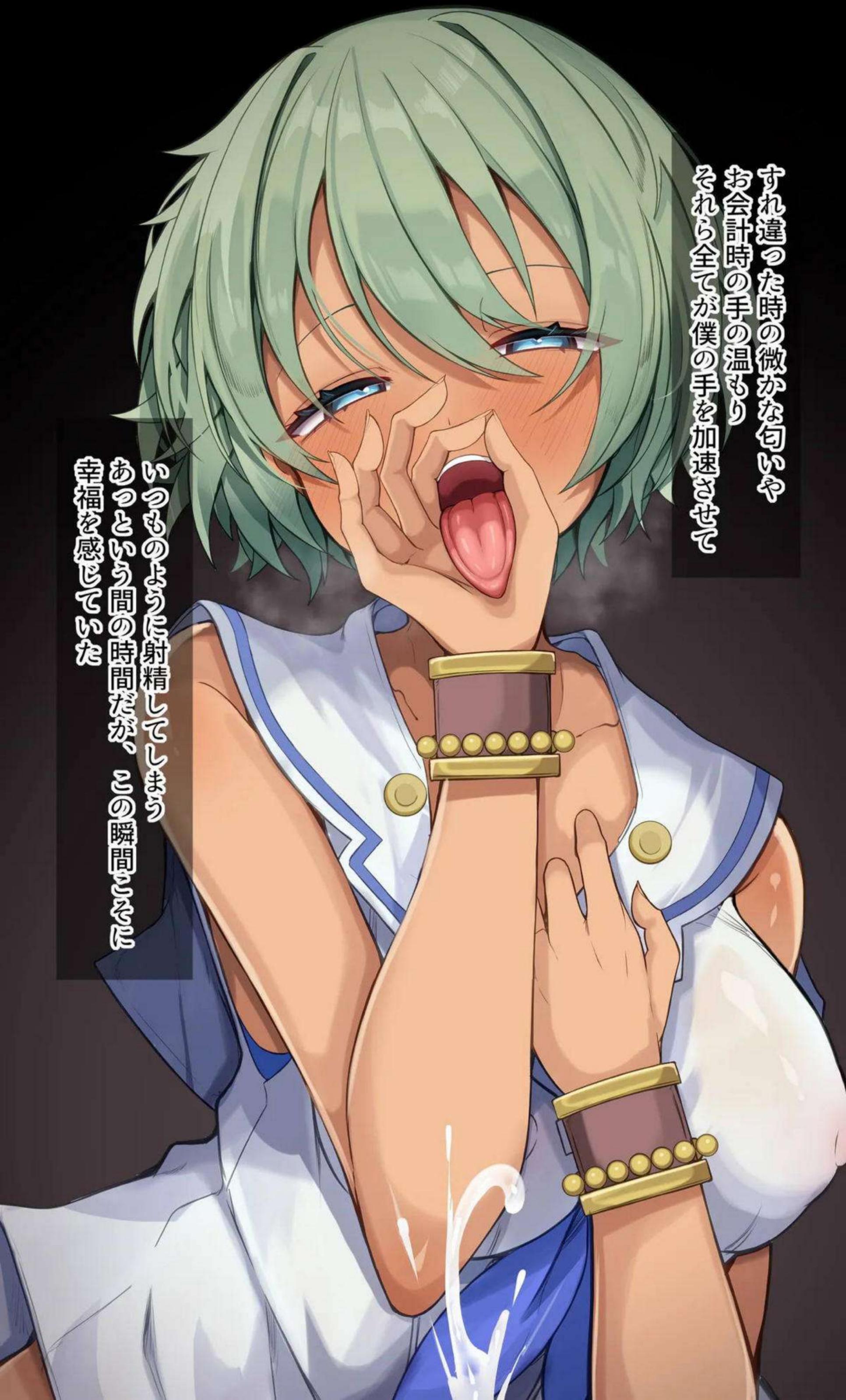
そして毎日のように妄想する
イオンさんが僕に情欲を煽る姿を

シチュエーションは色々考えるが
基本的には決まって見抜きだ



すれ違った時の微かな匂いや
お会計時の手の温もり
それら全てが僕の手を加速させて

いつものように射精してしまっ
あつという間の時間だが、この瞬間から
幸福を感じていた





。。。だが、昨日の夜は
とんでもないものを見てしまった

聞いたことがある
たしか最近この町に住み始めた
という奴だ。。。。



いつも見せてくれる
太陽のような笑顔ではなく

「邪魔」と言わんばかりの
蔑んだ目。。。。



あの日以降、僕の妄想は
大きく変わってしまった

何倍も大きなおちんちんに媚びる
イオンさんばかりを想像してしまう



妄想の中でさえ
イオンさんを汚すことには叶わない

ちっぽけな射精では
彼女に届くことはない



そして次に見せられるのは
褐色の肌を精液で白く染め上げられた姿

この景色が脳に焼き付いてしまって
僕はもう、妄想の中でしか彼女と会えていらない……

